

ビバハウス便り NO.109 ついに来た！「大学生受難」の時代

2015年11月30日 ビバハウス責任者 安達 俊子

例年とは違い、秋が長く暖かい日々が続いたので、少し感覚が麻痺してしまっていて、ついつい冬支度を後回しにしてしまい、数日前にいきなり大雪に見舞われてしまった。現在、スタッフとメンバーで一生懸命、冬囲いなどの準備をしている最中だ。

半月前の11月18日には倶知安で平成27年度山麓ブロック民生委員児童委員研修会があり、そこに講師として私が呼ばれていた。しかし、当日体調が非常に悪くて、行けなくなってしまい、急遽、安達尚男とスタッフの高崎さん二人に研修会の講師を務めてもらわなければならなかったが、当日出席の80余名の民生委員の方々が真剣に話を聞いてくださり、青少年が今置かれている現状理解を深めて下さった、との報告を受けほっとした。

また、今月は11月22日にビバハウスがあるこの余市教育福祉村の20周年の記念式典が行われた。この日はスタッフ四人で出席する下準備を整えていたが、当日、精神的に不安定なメンバーが出たため、協議の結果私がビバに残る事になり、お祝いの席に出れず非常に残念だった。

20年間という長い年月、福祉村が続いているからこそビバハウスも15年活動させていただけていると改めて感じた。

本当に20周年おめでとうございます。

ところで、これまでビバハウス便りでお伝えできていなかったのが、ビバハウスのメンバーの変化だ。

まず、夏休み明けに新しいメンバーが2名ビバに入所した。二人とも大学生活をがんばって過ごしてきたが、人との関わりに疲れ果ててしまって、学校へ行けなくなり、ついに休学。そんな2人がビバでの共同生活を通して自己を解放し、人との関わりにも自信をつけ、再度大学に復学するため自分の再構築を計ろうとしている。二人の特徴は似ていて、なんでも卒なくこなすこと、人と話をするのは特に苦手ではないなど。いたって普通の好青年だ。ただ、これまで色々つらい経験をしてきて人との関わり自体に嫌気がさし、人と関わる行為を自らSTOPさせていた状態だった。

そんな彼らが現在、日々のグループワークにしっかり参加し、他のメンバーとの交流も自然体で出来るようになり、とても良い状況だ。来春には元気よく大学に復学出来ると確信している所です。